

# 世界基督教統一神靈協会

現宗研では、昭和六十三年六月二十四日午後一時より東京都渋谷区松涛の世界基督教統一神靈協会（略称 統一教会）本部において、訪問調査の機会を得ることができた。調査は、本部（同時に東京教会でもある）の中を見学したあと、統一教会本部の五名の方たちに、調査スタッフの質問に答えていただく形式をとった。

統一教会については、既にマスコミをはじめ、様々な研究・分析がなされている。今回、現宗研の立場から独自の調査報告を試みたが、事前調査から報告書作成まで限られた時間のなかで、調査の範囲も限定せざるを得なかった。結果、不十分なものになってしまったが、次の調査のステップとさせていただきたい。

\* 調査日時 昭和六十三年六月二十四日

\* 場所 東京都渋谷区松涛 宗教学法人世界基督教統一神靈協会

## 一、沿革

### 1 創立者

統一教会では、「創始者」と呼んでいる。

創始者は、文鮮明（ムン・ソンミョン、英名Sun Myung Moon）（一九二〇〈大正九〉年一月六日〜）。現在の北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国平安北道定州郡徳彦面の生まれ。姓の「文」は聖書を、名前の「魚」はクリスチャン、「羊」はほふられた子羊、「日」は父、「月」は母を、それぞれ表しているという。一九四一〈昭和十六〉年四月に、日本の早稲田高等学校電気工学科に入学、一九四三〈昭和十八〉年九月に同校を卒業している。統一教会では、自

己の受けた迫害の歴史を非常に強調している。創始者文についての紹介も、政治権力や在来のキリスト教各派からの弾圧に対する「闘い」にウェイトが置かれ、布教活動に関するその他の資料、例えば、教団の立ち上がり時期に関するものなどは極めて少ない。『文鮮明・思想と統一運動』などによると、これまでに六回の投獄経験を持つ。最近では、永住権を持つアメリカで、一九八一〈昭和五十六〉年十月に脱税容疑によつて起訴され、一九八四〈昭和五十九〉年七月に収監されている（翌年八月釈放）。現在はニューヨークを拠点に布教活動をしている。

統一教会の日本における布教活動について語るときに、触れなくてはならない人物がいる。日本統一教会会長（代表役員）の久保木修己（亮光）（一九三二〈昭和六〉）である。久保木は、立正佼成会会長秘書・青年部渉外部長だった一九六二〈昭和三十七〉年、約三十名の佼成会青年部員とともに入教、一九六四〈昭和三十九〉年、統一教会が宗教法人として認証された際、代表役員に就任している。また、一九六八〈昭和四十三〉年の国際勝共連合日本本部（略称勝共連合）結成時に、その会長に就任している。日本における統一教会の草創期に、久保木ら立正佼成会出身者は、オルガナイザーとして相当大きな役割を果たしている模様である。ちなみに一九六四〈昭和三十九〉年結成の統一教会の友好団体・全国大学連合理究会（略称 全大原研）初代会会長小宮山嘉一も、立正佼成会出身とされている。（『新宗教辞典』）

## 2 成立

新宗教各教団の成立の過程に見られる一つの傾向として、所謂創唱期を飾る様々な「エピソード」の存在がある。ところが、統一教会から提供された資料には、不思議なほどそれが見られない。逆に、最近の動きでは、「世界」とか「アジア」などを冠した派手なものが目立つ。それらが、日常の布教・伝道活動とどの様にリンクしているか、はっきりしない。

ここでは、日本統一教会の動向を中心に紹介した。

一九三五〈昭和十〉年四月十七日 復活節の朝、創始者文鮮明（満十五歳）にイエスの霊が臨み、神の御旨（人類

救済の摂理）を完成しなければならぬ使命があると啓示。

一九五四〈昭和二十九〉年 文、ソウルに世界基督教統一神霊協会を創立。

一九五八〈昭和三十三年〉年 文、日本に宣教師を派遣。

一九五九〈昭和三十四〉年 日本統一教会設立。

一九六〇〈昭和三十五年〉年 文、韓鶴子と結婚。

一九六四〈昭和三十九〉年 日本統一教会、宗教法人として認証される（『世界基督教統一神霊協会』）。

一九六五〈昭和四十〉年 日本統一教会本部を、東京都渋谷区南平台より現在地の同区松涛へ移転。

一九六七〈昭和四十二〉年 日本語版『原理講論』発行。

一九六八〈昭和四十三〉年 合同結婚式。四三六組（日本一組）。

一九六九〈昭和四十四〉年 合同結婚式。四三組（日本二組）。

一九七〇〈昭和四十五〉年 合同結婚式。七七七組（参加一〇カ国、日本二三五組）。

一九七五〈昭和五十〉年 合同結婚式。一八〇〇組（参加二〇カ国、日本八二二組）。

一九八一〈昭和五十六〉年 文、ソウルで第一〇回「科学の統一に関する国際会議」を開催、国際ハイウェイ・日韓トンネル建設を提唱。

ニューヨークで合同結婚式。二〇七五組（参加七〇カ国、日本六〇四組）。

一九八二〈昭和五十七〉年七月 渋谷区松涛の新東京教会（日本統一教会本部）献堂式。（地上六階・地下一階、

同 年 八月

礼拝堂の収容人員約四〇〇名）。

同 年 十月

ソウルで合同結婚式。五八三七組（参加八三カ国、日本三七二九組）。

一九八五〈昭和六十〉年 文提唱の「世界宗教議會」第一回準備会を、アメリカ・ニュージャージー州で開催。

一九八六〈昭和六十一〉年 日韓トンネル、調査斜坑起工式。

一九八七〈昭和六十二〉年 「アジア共同体構想と宗教統一」をテーマに、第五回アジア教授統一思想シンポジウムを開催。

一九八八〈昭和六十三〉年 合同結婚式。六五一六組（参加一六カ国、日本約四〇〇〇組）。

## 二、教典・教義

### 1 教典

旧約・新約『聖書』、『原理講論』（教理解説書）

### 2 教義

創始者文鮮明が受けたとされる天啓を基礎とする「統一原理」と呼ぶものが、その中心である。

統一教会は、新旧キリスト教各派から『原理講論』の内容、つまり聖書の解釈などを巡って、異端（あるいは異教）視されている。発祥地韓国では、キリスト教とは異なるというニュアンスから「統一教とんいっく」、アメリカでは文（ムン）の名前から「ムーニー」と、それぞれ呼ばれている。日本では「原理運動」と呼ばれているが、これは日本における統一教会の草創期に、その活動の中心的な担い手が若い世代、特に学生であったため、一般から一種の学生運動のようなどらえ方をされたためだという。

また、「統一原理」と「勝共理論」・「統一思想」を総称したものが「統一理論」で、創始者文によって、その「統一理論」のもとに展開されている①文化・思想 ②科学・技術 ③言論 ④経済の各分野における活動を、「統一運動」

と呼んでいる。アメリカでは「ムーニズム」と呼ばれ、最近、日本の原理研究会も、大学などでこの表現を用い始めている。

ここでは、「統一原理」について、統一教会より提供された資料から紹介するとともに、教義・教理上問題とされている点については言及することを避け、キリスト教関係者の執筆による文献を挙げるのみにとどめた。

(1) 統一教会の理念は「神主義・GODISM」であり、目的は神と人間の永遠の理想である天国の実現であるとしている。「統一原理」は、その目的を達成するためのものであり、三つの部分から構成されている。

#### (イ) 創造原理

統一原理の根本であり、神が人間と万物をどのように創造したかということを明らかにしている。そして、理想世界を実現するという神の創造目的は、神のみによって完成されるのではなく、人間がその責任分担を完遂することによってなされるとする。

#### (ロ) 墮落論

神の意志によって創造された人間は、その神の理想とはあまりにかけ離れた状態にある。こうした本来の姿を喪失した人間の状態を墮落と呼び、その根本原因・動機・経路を説明することによって、根本的解決の糸口を示している。

#### (ハ) 復帰原理

神の救いとは、人間を墮落以前の状態に回復（復帰）することを意味する。神は二千年前、イエス・キリストを遣わしたが、人々は受け入れずに十字架上で殺害してしまった。しかし、イエスの十字架上の犠牲による霊的救いの摂理が、キリスト教として継続し、神の摂理的基盤を達成して来たとする。そして、現代を人類の罪悪歴史に終止符を打ち、新しい神の国の歴史が始まる転換の時代・終末のときを迎えているとする。従って、神が遣

わす再臨のキリストによつて、神を中心とした真の家庭・社会・国家・世界を造り、天国を築いて行くべきときであるとする。

(2) 『原理講論』には、具体的な人・場所の表現はなく、また文鮮明自身も、自分を再臨主・再誕主とは明言していないという。しかし、統一教会の信者は、彼を神の国のもたらすメシア的内容の存在と信じているという。そして、神の摂理に呼応する人物が生まれたところとして、当然韓国が重要なポストにあるという。

朝鮮半島における南北問題は、彼らのいう摂理的プログラムのモデルケースとして位置づけられている。『原理講論』では、「・・・第一次、第二次の大戦は、世界を民主と共産の二つの世界に分立するための戦いであり、このつぎには、この分立された二つの世界を統一するための戦いがなければならないが、これがすなわち第三次世界大戦なのである。第三次世界大戦は必ずなければならない・・・」とし、「・・・天の側で第三次大戦に勝利して共産主義世界を壊滅させ、すべての主権を神の前に取り戻して宇宙主義の理想世界を実現しなければならない・・・」としている。

(3) 前述のキリスト教関係者による教義・教理上の問題を指摘した文献を紹介する。

- ① 浅見定雄著『統一協会Ⅱ原理運動 その見極めかたと対策』（日本基督教団出版局、一九八七年）  
著者は、東北学院大学文学部キリスト教学科教授。
- ② 森山諭著『現代日本におけるキリスト教の異端』（ニューライフ出版、一九八六年）
- ③ 森山諭著『原理福音統一協会のまちがい』（同、一九八〇年）
- ④ 森山諭編著『統一教会からまことのメシヤへ／原理議論のまちがいをただす』（同、一九八六年）  
著者は、萩窪栄光教会牧師。
- ⑤ 和賀真也著『統一協会―その行動と論理』（新教出版社、一九七八年）

⑥ 和賀真也編著『統一協会と文鮮明』（同、一九八一年）

著者は、エクレシア会代表責任者・牧師。

いずれも、一般書店で入手可能なものばかりを挙げた。同じキリスト教でも、聖書の解釈や実践の方法がかなり異なっている。当然、それぞれに結集する人間の個性も随分と違って来るだろう。

### 三、信仰の対象

天地創造の神（万物の創造神）である。在来のキリスト教と同様であるが、礼拝堂の内部などに「統一マーク」と呼ぶシンボルマークを掲げている。カトリックの教会に見られる、十字架上のイエス像・聖母マリア像・聖人像などの偶像、即ち具象的な崇拜対象は、全く祀られていない。また、「ホームチャーチ」と呼ぶ家庭での礼拝の際に、創始者の写真を「安置」する場合があるという。

統一マーク



### 四、組織・機構・教勢

#### 1 教会の名称

正式名称は、宗教法入「世界基督教統一神霊協会」である。略称については、自らは「統一教会」と表記している。

なお、在来のキリスト教各派・革新政党は、「統一協会」という呼称を用いている。

## 2 本部

東京都渋谷区松涛一―一―二

## 3 修行場所

千葉中央修練所（一九七六〔昭和五十一〕年開設）。宝塚修練所（一九六七〔昭和四十二〕年開設）。

## 4 伝道組織

日本全国に十四教区六十一教会が存在し、壮年部・婦人部・青年部・学生部の四つのセクションがある。また、東京・大阪・名古屋には複数の教会が存在する。

各教会には、教会三役と呼ぶ、教会長・総務担当・会計担当の役職がある。他に教育担当として講師がある。祭祀・礼拝については、教会長が行う。統一教会では、牧師あるいは神父という表現は用いていない。

統一教会の学生部と全国大学連合原理研究会とは、別個の団体である。全大原研は、奈良・和歌山・鳥取・島根の各県を除く全国に組織を持つ。

## 5 教勢

一九八四〔昭和五十九〕年発行の『信教の自由と文鮮明師』によると、世界一三四カ国を基盤とし、教会員数は全世界に三百万人以上を数える。教会員数の多い国は、①韓国 ②日本 ③アメリカである。教会員のレヴェルは国によって基準が異なり、日本は「教育的」には最も高いレヴェルにあるという。

日本国内の教会員数は、三十八万人で、壮年・婦人が六〇%、青年が三〇%、学生が一〇%の比率になっている。

男女比では、女性がやや多いという。参考として、久保木修己が会長を兼ねる勝共連合は、会員数を七百万人と公称している。



この数字は、統一教会と勝共連合の関係を否定する際に用いられている。

同じく教師数は、五千人と発表している。前述の教会三役と講師を含めたもので、特に講師に重点を置いているという。講師については、教育面に限定された存在だというが、祭祀にも関与し、その資格の与え方も含めて、性格がいまひとつはつきりしない。少なくとも、教師の中で重要な役割を果たしているのは確かなようである。

## 五、未信徒の教化と信徒の教育

### 1 未信徒の教化

訪問調査の際には、具体的な事例について取材できなかった。統一教会から提供された資料のなかの「文鮮明師の歩み」および「日本統一教会の沿革」に見られるような大がかりな活動は、布教・伝道、とりわけ未信徒の教化に、どれほど実効性があるのだろうか。この点はつきりしない。

統一教会には、従来の宗教色・宗教臭があまりなく、学生・青年は、「真理」を求めて、「統一原理」に引きつけられてやって来るという。また、全国の大学に原理研究会が結成され急速に勢力を拡大して行ったのは、七十年代初めごろで、それは、学生運動の「低迷」の時期にほぼ一致する。ちなみに、統一教会と原理研究会は別個の団体なので、相互の会員に原則的にダブリはないという。

所謂御利益信仰については、教義の本質上、そうした要素がはいり込む余地はないという。

### 2 信徒の教育

(1) 修練所教育 基本的教育で、二十一日、四十日修練会がある。

「講師」の資格については、修練会修了後、「特別の研修」があり、そこで公認されるという。しかし、「特別の研修」の内容については、明らかにしてもらえなかった。

(イ) 教理面の教育 統一原理、聖書などに関する講義。これが、「原理講義」と呼ぶものである。

(ロ) 心靈面の教育 教理の実体化・生活化をはかるもので、祈禱や奉仕活動をはじめとする諸々の実践などである。

(2) 教会教育 全国の各教会を中心に、日常の生活の中で施される教育で、生活そのものが教育の場と考えられている。

(イ) 礼拝による教育 毎日曜日や各種記念日ごとの礼拝や式典による教育。

(ロ) 生活教育 教会を通しての信仰生活の指導。

(3) 伝道 「人を導くことは、自分自身の成長」ということから、伝道も広義の教育と考えられている。

(イ) 訪問伝道

(ロ) 路傍伝道

(ハ) 開拓伝道 国内のほか、百数十カ国に宣教師を派遣し、海外宣教を実施しているという。

(ニ) 出版物による伝道

(ホ) ホーム・チャーチ活動 地域ごとの愛と奉仕の実践活動によって、家庭・地域単位の教化をめざすという。かつて、朝日新聞などで「親泣かせの原理運動」と批判された統一教会だが、現在では、布教・伝道活動の中でも

たらされたものを、家庭に還元して行く時代が来たと表現している。

(ハ) 合同結婚式 創始者文鮮明の家庭観・結婚観に基づく。文は、韓鶴子と結婚。神による「真の家庭」の原型をつくったとする。神を中心とした家庭こそが神の国の基盤であり、その家庭の出発である結婚式を、文夫妻の媒酌で、合同で国際的に行うことにより、世界に人類一家族の理想を示すのだという。また、もう一つの目的として、同じ結婚の意義と理想を認め、相互に祝福することも挙げている。訪問調査にご臨席いただいた統一教会本部の五名の方たち全員が、合同結婚式による結婚をされていた。現在では、統一教会の伝道・布教の基礎的な活動が、合同結婚式によって結ばれた夫婦単位から、時間の経過とともに彼らの作った家庭単位に移行しつつある

といえよう。

## 六、宗教体験と意義づけ

各信徒の信仰とその実践によって、神の御旨（摂理）が成就して行く事実こそが、最高の宗教体験であるとしている。それは、一人ひとりが愛の人格を成長させて行くことであり、理想世界実現に一步一步近づいて行くことであるという。

### (1) 礼拝・修練会

これを通して教えが身につく、神の御旨と信仰に対する確信を持つことができるとしている。

### (2) 伝道実践・祈禱・断食

これを通して人々を伝道し、神のもとに復帰するために、我が身を打つてでも誠意を尽くそうとする姿勢の中に、神の心情や父母の愛を体恤し、より幅広い人格を自覚することができるとしている。

### (3) 奉仕活動

これまで諸宗教が説いてきた本質ともいえる、愛と奉仕の実践をすることを通して、人々が新生し、善の人格に変革されて行くことを通して、神の愛の偉大性と、摂理の絶対性を確信することができるとしている。

## 七、信徒の守るべき事項

「信徒の義務」として三つをあげている。

- (1) 儀式、その他、礼拝、修練会、祈禱会などへの参加
- (2) 伝道

### (3) 献金

また、統一教会の「信条」として、次の六項がある。

一、天地の創造主たる唯一絶対の神を信ずる。

二、旧・新約聖書を教典とする。

一、人間始祖アダム・エバの墮落による原罪を受け継いだ罪人であることを認める。

一、神がわれわれの罪を贖わんために、独りイエス・キリストをつかわされたことを信ずる。

一、人類の不信仰により、未だ神の御旨が地上に完遂されていないことを認める。

一、現代において再びキリストを迎えることにより原罪を贖われ、人格を完成し、真の家庭を築き、天と地に神の御国が建設されることを信ずる。

## 八、財政

教会員の献金によつて維持されている。献金には、①定期（月例）的に行うもの、②教会の行事の都度行うもの、③随時行うもの、の三つがある。①は、収入の一〇％を献金するという、キリスト教に伝統の「一〇分の一献金」の流れをくむ。会費制度はとっていない。

## 九、入信して良かった点・悪かった点

教会員に、直接取材・調査する機会を得なかつた。

## 一〇、既成仏教との相違点・魅力

新宗教の各教団では、信者の中心が四十歳以上の婦人であることが多いのに比べ、統一教会では若者が多く、学生の比率も高くなっている。

統一教会関係の出版物は、一般書店では入手できない。ところが、主な大学の図書館には必ずといってよいほど「原理解研究会」などの名前で、多くの出版物が寄贈されている。『原理講論』は実証性を前面に押し出し、論理的・哲学的表現を散りばめ、「人間の存在の有様、歴史の行く道、世界統一への希望」（『全大原研パンフレット』より）など、若者の全ての精神的苦悩に答え得る様相を呈している。創始者文周辺の日本をはじめとする各国の学者たちは、「宗教と科学の問題」など、時宜を得たテーマを巡って、若者たちに様々な語りかけをしている。

このように統一教会は、若者の精神的欲求のみならず、知的欲求をも満たす存在となっている。この点において、統一教会は、非常に対象のはつきりした、目的意識的な布教・伝道活動を展開しているといえよう。

都市部の寺院を中心に、所謂原理運動に加わった子供の親からの相談が多い。日蓮宗の教師として、どのような心構えで、親たちの訴えに応じたらよいだろうか。「親泣かせ」というレッテルを貼られた若者たちだが、少なくとも、彼らは社会への関心が高く、何かを求めているということがいえるだろう。そうした意味では、刹那的なものと考え方をする若い世代が多いなかで、本当に若者らしい存在といえるかも知れない。われわれは、むしろ「彼らのような若者たちこそ、本来の教化の対象である」という認識で臨み、宗教のあるべき姿を明らかにし、日蓮聖人の教えの素晴らしさを訴えかけて行くべきだろう。

## 一一、統一教会に関する参考文献・資料

参考文献

松野純孝編『新宗教辞典』（東京堂出版、一九八四年）。新宗教研究会著『新宗教ガイドブック』（ベストブック、一九八七年）。井上順孝編『新宗教研究調査ハンドブック』（雄山閣、一九八一年）。

\*キリスト教関係の文献は前出。ジャーナリストイックな内容のものは省略した。

資料

『原理講論』（光言社）。『原理講論講義案』（同）。『統一思想要綱』（統一思想研究所出版局）。『統一思想教材』（統一思想研究院）。統一思想解説（同）。『文鮮明・思想と統一運動』（善本社）。『信教の自由と文鮮明師—米国政府の宗教弾圧と闘う文鮮明師—』（世界基督教統一神霊協会）。『宗教法人世界基督教統一神霊協会紹介』（同広報部）。

機関紙誌

機関紙「中和新聞」（一九七八〈昭和五十三〉年一月創刊）。月刊誌「新天地」（一九七四〈昭和四十九〉年二月創刊）。広報誌月刊「統一教会NEWS」（一九八四〈昭和五十九〉年四月創刊）。

## 一二、結びにかえて

今回はこれまでになく、政治的なものの存在を意識させられた調査だった。訪問調査の際に、統一教会本部職員の方たちが、たびたび使用された「私たち宗教法人としては」という表現にも、衣の下に何かを垣間見る、そんな思いがした。

現在、統一教会では、「宗教協力」を巡り、他教団の分析をする専門のセクションを持ち、出版担当のスタッフも四十名いるという。日蓮宗とは単純に比較できないが、参考にすべき点は多くあるだろう。

※調査スタッフ 赤堀正明主任、木村康之・竹岡智大所員、古河良皓・山口裕光・勝呂昌信研究員  
※執筆担当者 勝呂昌信研究員